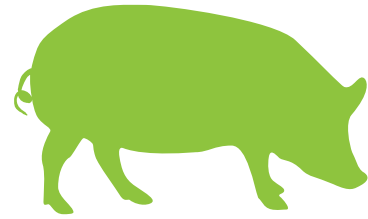


# 豚肉

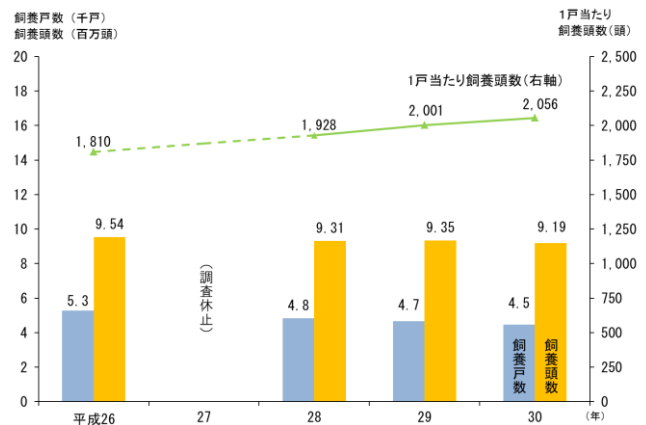


## ◆飼養動向

### 30年2月現在の1戸当たり飼養頭数、2.7%増加

豚の飼養戸数は減少傾向で推移しており、平成30年は、4470戸（前年比4.3%減）とやや減少した。飼養頭数は、近年おおむね減少傾向で推移しており、30年は918万9000頭（同1.7%減）とわずかに減少した。1戸当たり飼養頭数は、前年から54.4頭増加して2055.7頭（同2.7%増）となった。また、子取り用めす豚の1戸当たりの飼養頭数も同5.4頭増の226.3頭（同2.4%増）となった。小規模生産者を中心とした離農の進行により、飼養戸数が減少したものの、1戸当たり飼養頭数は増加し大規模化が進行している（図1）。

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数



資料：農林水産省「畜産統計」

注1：各年2月1日現在。なお、30年は概算値。

2：平成27年は世界農林業センサスの調査年のためデータなし。

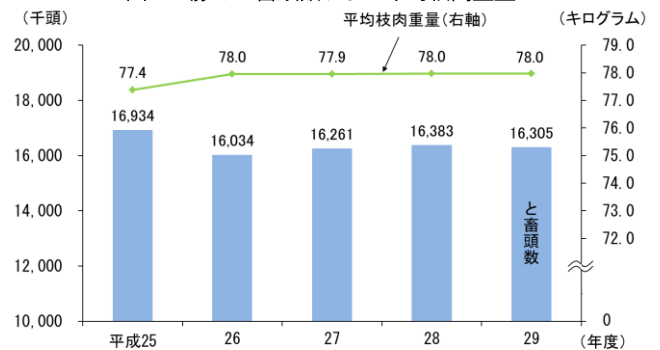
## ◆生産

### 29年度の生産量、0.5%減少

豚のと畜頭数は、平成26年度に発生した豚流行性下痢（以下「PED」という。）の影響から減少したものの、その後回復し、おおむね増加傾向となっていたが、29年度は、前年の夏場の猛暑による繁殖成績の低下などにより、1630万4627頭（前年度比0.5%減）とわずかに減少した。

また、同年度の1頭当たりの平均枝肉重量は、78.0キログラムと前年度並みとなった（図2）。

図2 豚のと畜頭数および平均枝肉重量



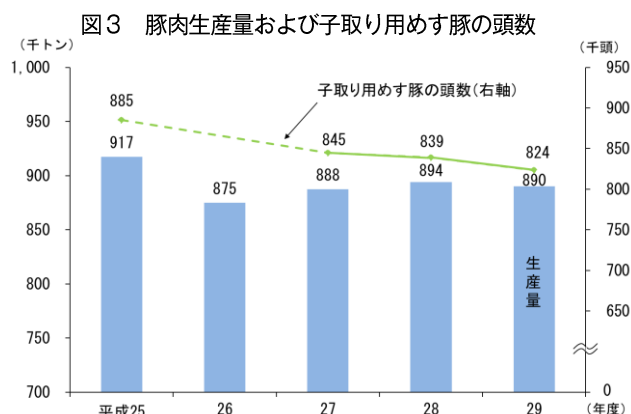
資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：平均枝肉重量は全国平均。

生産量について、27年度は、前年度に発生したPEDの影響から回復し出荷頭数が増加したことから、88万7551トン（同1.4%増）とわずかに増加した。

28年度は、引き続きPEDの影響からの回復などにより、出荷頭数が増加したことから、89万4197トン（同0.7%増）とわずかに増加した（図3）。

29年度は、前年の夏場の暑さによる繁殖成績の低下などにより、出荷頭数が減少したことから、89万81トン（同0.5%減）とわずかに減少した（図3）。



資料：農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」  
注1：生産量は、部分肉ベース。  
注2：子取り用めす豚の頭数は、各年2月1日現在。平成26年度は世界農業センサスの調査年のためデータなし。

## ◆輸入

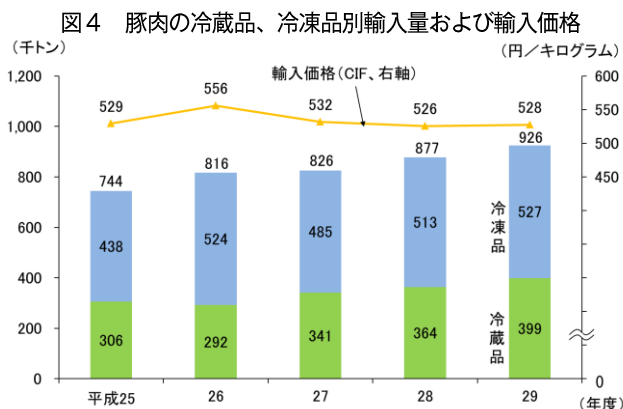
### 29年度の豚肉輸入量、5.5%増加

#### 豚肉

豚肉の輸入量について、平成27年度は、冷凍品が増えた前年度の反動により減少したものの、冷蔵品は主要産地である北米でのPEDの沈静化により生産が回復したことなどから大幅に増加した結果、合計では82万5617トン（前年度比1.2%増）とわずかに増加した。

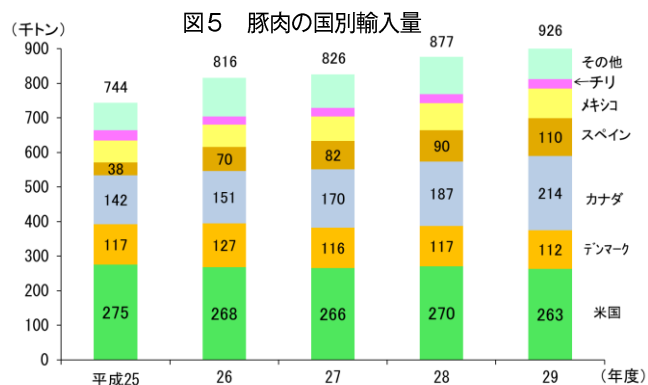
28年度は、冷蔵品は国内の好調な需要に支えられ、冷凍品もEUからの輸入量が増加した結果、合計では87万7006トン（同6.2%増）とかなりの程度増加した。

29年度は、冷蔵品については国内の好調な需要に加え、北米現地では冷凍品よりも単価の高い冷蔵品の輸出意欲が高いことから、増加した。また、冷凍品については北米産が減少した一方、カットなど技術面の向上でメキシコ産やスペイン産などの輸入量が増えたことから増加した。その結果、合計では92万5631トン（同5.5%増）と4年連続で増加し、過去最高となった（図4）。



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

29年度の国別輸入量は、米国産が26万3116トン（同2.6%減）、デンマーク産が11万2221トン（同4.4%減）と減少した一方、カナダ産は21万4035トン（同14.7%増）、スペイン産は11万220トン（同22.9%増）、メキシコ産は8万5594トン（同9.1%増）と増加した（図5）。



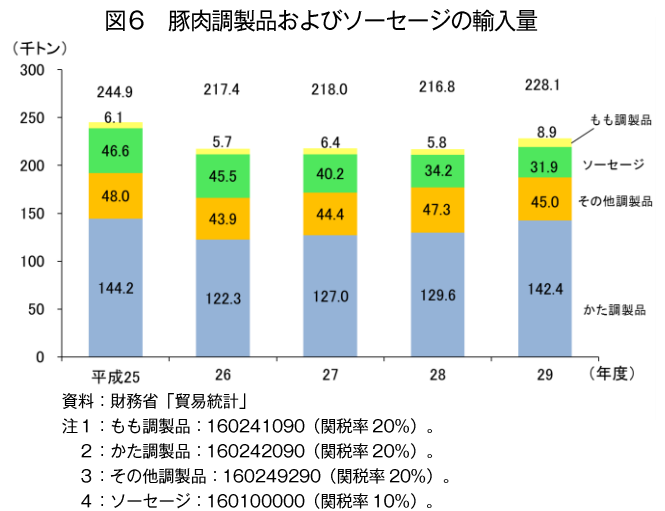
資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

## 豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量について、平成27年度は、世界保健機関（WHO）の食肉加工品に係る発がん性リスク報道によりソーセージ需要が減少したものの、豚肉調製品が増加した結果、合計で21万7982トン（前年度比0.3%増）と前年度並みとなった。

28年度は、豚肉調製品が増加したものの、前年度に引き続きソーセージ輸入量が減少した結果、合計では21万6789トン（同0.5%減）とわずかに減少した。

29年度は、ソーセージ輸入量が5年連続の減少となったものの、豚肉調製品の底堅い需要が続いていることから、合計で22万8142トン（同5.2%増）と増加した（図6）。



## ◆消費

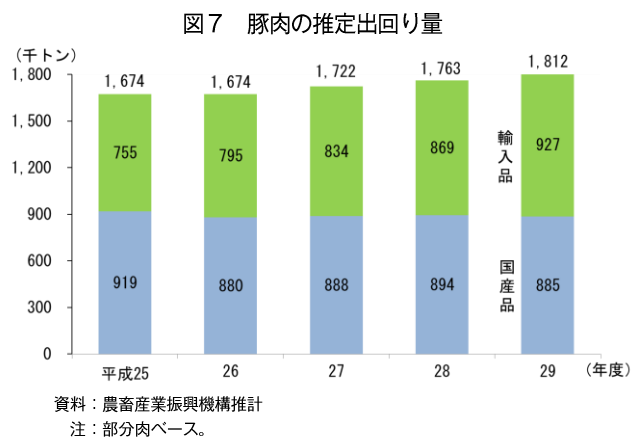
29年度の推定出回り量は2.8%増加、家計消費量は2.6%増加

## 推定出回り量

豚肉の推定出回り量は、近年の好調な豚肉消費を背景に増加傾向で推移している。平成27年度は、国産品は88万7816トン（前年度比0.9%増）とわずかに増加し、輸入品も83万4116トン（同5.0%増）とやや増加した結果、全体でも172万1932トン（同2.8%増）とわずかに増加した。

28年度は、国産品は89万3752トン（同0.7%増）とわずかに増加し、輸入品も86万8765トン（同4.2%増）とやや増加した結果、全体では176万2517トン（同2.4%増）とわずかに増加した。

29年度は、国産品は88万4832トン（同1.0%減）とわずかに減少した一方、輸入品は輸入量の増加に伴い、92万6800トン（同6.7%増）とやや増加した結果、全体では181万1632トン（同2.8%増）とわずかに増加した（図7）。

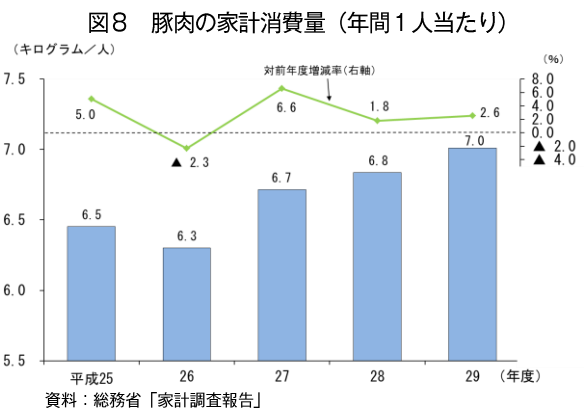


## 家計消費

年間1人当たりの豚肉の家計消費量を見ると、平成27年度は、牛肉価格の上昇により家庭での豚肉の需要が高まったことなどから、前年度をかなりの程度上回る同6.7キログラム（前年度比6.6%増）となった。

28年度は、家庭における好調な豚肉需要を背景に、前年度をわずかに上回る同6.8キログラム（同1.8%増）となった。

29年度は、前年度に引き続き、好調なテーブルミート需要を背景に、前年度をわずかに上回る同7.0キログラム（同2.6%増）となった（図8）。



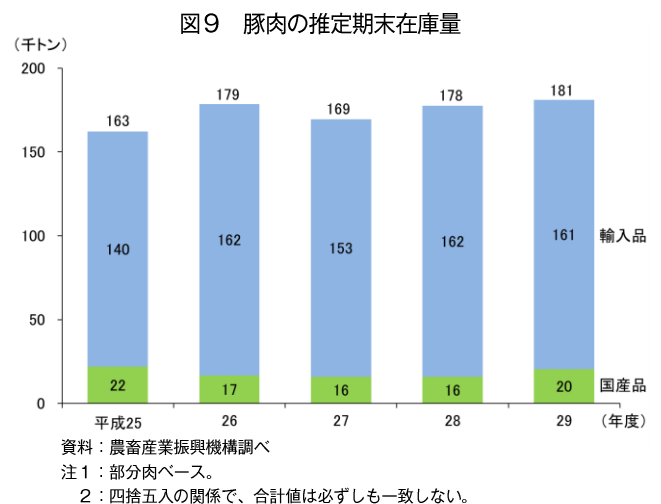
## ◆在庫

### 29年度の推定期末在庫量、1.9%増加

豚肉の推定期末在庫量について、平成27年度は、国産品、輸入品ともに出回り量の増加に伴い年末まで取り崩しが進み、16万9380トン（前年度比5.2%減）とやや減少した。

28年度は、国産品は前年度を下回ったものの、輸入量の増加に伴って輸入品が積み増したことから、17万7519トン（同4.8%増）とやや増加した。

29年度は、輸入品は出回り量の増加に伴い、前年度を下回ったものの、国産品は出回り量の減少に伴い、積み増したことから、18万974トン（同1.9%増）とわずかに増加した（図9）。



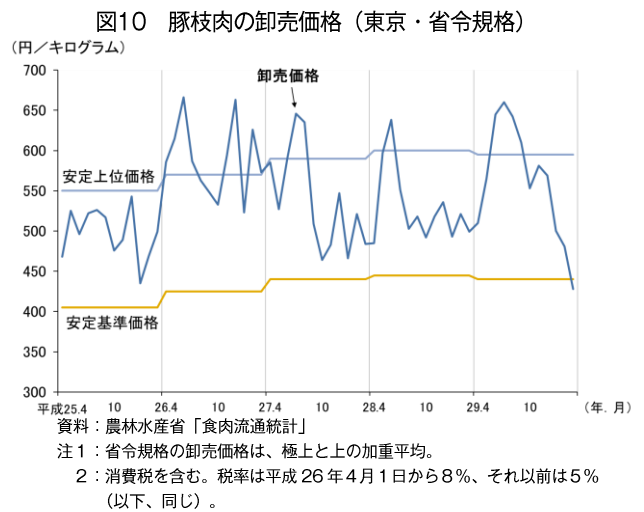
## ◆枝肉卸売価格

### 29年度の枝肉卸売価格、上半期は高値で推移

豚枝肉卸売価格（東京・省令規格）は、平成27年度は、輸入量が増加し、さらに前年度に発生したPEDの影響から回復して出荷頭数が増加したことから、前年度を下回って推移した。

28年度は、輸入量の増加に加え、引き続き出荷頭数が増加したことから、前年度をやや下回って推移した。

29年度は、出荷頭数減少などを背景に上半期は前年度を上回って推移した一方、下半期は輸入量の増加を背景に低下基調となった。この結果、年度平均では1キログラム当たり562円（前年度比6.2%高）となった（図10）。



## ◆小売価格

### 29年度の小売価格、国産品は上昇、輸入品は低下

豚肉の小売価格（ロース）について、平成27年度は、卸売価格が前年度を下回ったものの、家計消費が好調だったことから、国産品は100グラム当たり270円（前年度比4.3%高）とやや上昇し、輸入品も同158円（同0.7%高）とわずかに前年度を上回った。

28年度は、家計消費が好調だったものの、生産量や冷蔵品輸入量の増加に伴い、市中価格が安値となったことから、国産品は同268円（同0.5%安）とわずかに低下し、輸入品は同153円（同3.2%安）と前年度をやや下回った。

29年度は、国産品は卸売価格が上昇したことから、同269円（同0.4%高）とわずかに上昇した。一方、輸入品は前年度に引き続き冷蔵品輸入量の増加を背景に市中価格が安値で推移したことから、同146円（同4.2%安）と前年度をやや下回った（図11）。

